

令和２年度 本丸中学校の教育の概要

I 学校運営の基本構想

1 「本丸の教育」を取り巻く状況

新学習指導要領の完全実施を令和３年度に控えているが、社会の価値観は多様化し、学校に対する願いも年々複雑化し、子どもたちの家族とのかかわりや地域社会との関わりは薄れてきている。そのような状況下、生徒の学習や生活の状況をめぐっては、学習習慣定着の不十分さからくる家庭学習時間の減少、また、自分の考えや思いを的確に言語化できないために人間関係をうまく構築できず孤立したり、SNS等を介してトラブルに発展したりするケースも後を絶たない。さらに、集団への不適応、自尊感情及び規範意識等の低下、いじめや問題行動、家庭での問題の反映など様々な課題が山積しており、「本丸の教育」を取り巻く状況は依然として厳しい。と同時に市民、保護者の学校教育への期待は大きい。

こうした中、「生きる力」さらに「生き抜く力」を育むことをねらいとして、「知・徳・体」のバランスのとれた不易の教育を一貫して進め、全校体制での学力向上指導、生徒指導や不適応生徒への支援、特別支援教育を充実させ、子どもたちに傾聴の姿勢で接しながら、保護者とも信頼関係を築き、新学習指導要領の改訂に沿った「本丸の教育」を推し進めていく必要がある。

2 「本丸の教育」の現状

【心】

自己肯定感を高める「異学年交流」「話し合い活動」「生徒会活動」、「いじめ見逃しゼロ運動」や「課題解決に向けた生徒主体の朝会・委員会活動」、あるいは不登校の未然防止・人間関係作りを目的とした関わり合い学習を展開してきた。「学級の中で自分が認められている」と感じる生徒の割合は91%と高いが、一部に低い生徒もおり、性教育の講演会、CAPプログラムなどを数年来導入し、教育相談も丁寧に行っている。多くの生徒は何事も積極的な態度で活動し、全校集会など落ち着いた環境で教育活動が行われている。

【知力】

学力の面においては、「『できる・分かる』と実感している」生徒の割合は平均88%と高く、6年前から目標値を80%から85%に上げてても高く推移してきたのは、落ち着いた雰囲気の中で授業を行おうと、教師が授業改善に努めてきた結果である。ここ数年、全国学力検査(3年生)及びNRT(全国平均偏差値50.0)はほぼ全国平均かやや上回る値を推移している。とりわけ、全校体制による「より具体的な授業改善」「授業のきまりの徹底」「全教師授業公開」「家庭学習習慣の定着のための全校自学ノートの実施」を行い、全学年とも生徒の意識やWebテストに実践の成果が表れてきている。

【健康・体力】

健康面においては、新発田市とともに継続してきた「食育」、性教育講演会・歯肉炎予防教室などの「保健指導」、重点的に推進してきた「部活指導」の成果が表れ、年度末の評価で「規則正しい生活を心がけている」生徒の割合が80%、さらに、「食事の大切さが分かり、好き嫌いせずに給食を完食できた」生徒の割合は80%であり、食や健康に関する関心の高さが伺える。また、体力面においては、体力テストでの対全国偏差値をほぼ上回っている。体力向上を目指した体育授業における「準備運動」や運動部活動の日々の成果が表れている。

3 「本丸の教育」の課題

(1) 自己肯定感をもち、互いに認め合い高め合える本丸の生徒

健全な自尊感情が低い生徒が一部見受けられることから、目標を定め「認められている」「やればできる」「自分は価値がある人間だ」という自己肯定感を一層高め、生徒個々が自己実現を求めて精進・努力する姿を表出させるよう、学級・生徒会活動や特別活動における話し合い活動、相互に励まし高め合う集団を形成しようとする生徒の自主的な取組及び発表の場を一層活発化させる。

また、人間関係のトラブル、不適応の行動、SNS等に関係したトラブル等が散在していること、さらに、不適応・不登校生徒の発生の数が減少しないという状況が見られることなどから、今後一層、職員間で情報交換を密にし、情報共有に努め、個別の生徒指導に力を入れ、予防の立場から家庭と連携しながら子どもたちの目標設定能力、自己決定能力、コミュニケーション能力、自尊感情を高める教育（ライフスキル教育等）を積極的に実践する必要がある。

(2) 基礎・基本を身に付け、目的意識をもってたくましく生きられる本丸の生徒

思考活動等に裏打ちされた表現活動を強調することで、知識や技能の習得・活用の意義を理解させ、さらに、意欲的に学ぶ姿勢を培い、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるための「指導と評価の一体化」をこれまで以上に推し進め、個に応じた指導の充実を図る。

また、諸テスト結果の分析に基づく単元指導計画の見直し及び授業改善を一層進めるとともに、授業力の向上を全教職員が最重要視し、学力向上を目指してより具体的に取り組む必要がある。併せて、家庭学習習慣の形成に向けた指導にも、中学校区で小中連携を図り、さらに具体的な手立てを講じる必要がある。

(3) 健康でたくましく生きられる本丸の生徒

食生活や生活習慣の乱れ（朝食抜きや夜更かしなど）に起因した健康に関わる問題や体力低下の問題を抱える生徒もいることから、健康三原則である「調和のとれた食事」「適切な運動」「十分な休養・睡眠」について生涯教育の観点からも指導を継続する。また、自分の健康や体力について自ら改善を図ろうとする意欲を高める指導を充実させる必要がある。そのためにも、「かけがえのない自分、かけがえのな

い健康」を維持するため、「心の健康、喫煙・飲酒・薬物乱用、感染症」「性教育」などの学習の機会を設定する。さらに、生徒が自らの体力に関心をもって生活できるよう、運動部活動の意義と役割を踏まえ、マナーの向上、礼儀作法も含め部活動指導の一層の充実を図る必要がある。

4 基本的な構え

学校は「人間形成の場である」。勉強や部活動、特別活動や学校行事などを通して多くの人と関わり、仲間と切磋琢磨し、困難を乗り越え、自分を磨き、成長させていくところである。将来、世のため、人のために尽くせる人間、社会貢献できる人間の育成を目指す。

本丸中学校の生徒で良かった。保護者も本丸中学校に子どもを通わせて良かった。我々教職員も本丸中学校の職員で良かった。「我が本丸中」と生きる希望と勇気と誇りがもてる、皆が我が校を誇れる学校づくりを目指す。生徒一人一人に誇りと自信を持たせることを重点的に行う。

教職員と生徒、保護者、地域住民との信頼関係づくりを学校教育の基本において「当たり前のことが当たり前でできる」学校を目指す。生徒もそうであるが、我々教職員も、保護者も同様である。そのために、感謝・敬意・自尊の心を育てる。

(1) 「めざす生徒像」を具現するため、教職員一丸となって教育活動を展開する。

「本丸の教育」課題を解決していくためには、教職員一人一人が、上記3の(1)～(3)の課題をしっかりと捉え、率先垂範、自己研鑽に励み、揺るぎない信念で自信と愛情をもって指導に当たることが重要となる。また、生徒の指導に当たっては、生徒や保護者の教育を受ける側の思いを鋭敏な人権感覚で受け止め、考え、情熱をもって適時的確に支援・指導を行う。

(2) マネジメント能力を高め、目標達成を目指した教育活動を展開する。

ミドルリーダーが中心となり課題解決を図り、教職員集団の団結を強める。また、組織を大切に、プロジェクトや教科・学年部の議論を重視し、教育活動を充実させる。その際、学校評価を通して一人一人のマネジメント能力を高めることはもちろんのこと、学校評価結果を基にして、絶えず教育活動や学校運営の改善に自ら参画し推進していく。

(3) 内（校内）に開かれ、外（家庭や地域社会）に開かれた学校を実現する。

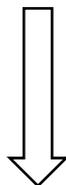
「共創の学校づくり」の具現化を目指した中で、保護者・地域住民の方々から多大な協力・支援をいただき、信頼を得てきた。今後もこの取組を進め、家庭・地域とのより太いパイプを築いて、学校支援ボランティアの考え方を積極的に取り入れ、保護者・地域住民の学校づくりへの参画意識を高めていく。

また、教職員一人一人の思いや考えを教育活動や運営活動に積極的に生かし、「相違」「創意」「総意」を大切に「本丸の教育」を展開していく。

II 目標系列

1 教育目標

錬磨し 協調し 創造する生徒



錬磨…知識・技能、身体、精神を鍛える
協調…他の人のよさや違いを認めて、協力し合う
創造…新しいもの（事物、活動、伝統）を創り出す

めざす生徒像

- ・ 生き方を考え、より高い価値を求め続ける生徒
- ・ 自他を敬愛し、互いに高め合う生徒
- ・ 諸活動に真剣に取り組み、力を伸ばす生徒

2 重点目標

- ・ 生徒の自主的な取組を活発化させて自己肯定感を高め、共感的な人間関係を育てる。
- ・ 目的意識をもって学ぶ意欲を高めるために、個に応じた指導を充実させる。
- ・ 食に関する指導と体力向上の取組を強化し、健康でたくましく生きる力を育てる。

3 努力事項

生徒に「生きる力」を育むために、我々教職員が全校体制で組織を生かし、「チーム本丸」で目標を設定し、取組を明確化し、協働し仕事を行う。

(1) 教育の基本である「当たり前のことが当たり前でできる」学校を目指す。

「環境は人を育てる」観点から基本的生活習慣の確立のため、生徒も教職員も挨拶・返事・礼の励行、授業のルールの確認と対応、履物を揃える等の立ち居振る舞いやさらに言語環境を整え、適切な言葉遣いを学び、語彙を増やし、教室や校舎などの清掃・掲示物、及び皆の前での発表を含む環境整備の推進を図る。

併せて、学級が全ての基礎・基本であることをもう一度再確認し、学級経営・学級指導を全校体制で取り組む。

まさに教育は子どもたちに教養を身に付けさせることの原点に帰る。

(2) 望ましい生活習慣の確立を図るため、健康調査等を基に食育及び日々の健康指導に力を入れるとともに、家庭への啓発活動及び家庭との協働を積極的に行う。健康増進・体力向上について生徒の意識を高めるとともに、健康維持や体力向上を図るため「体力向上のための準備体操」「食育」や「部活動」を大切にする。

(3) 健全な自尊感情の育成のため、人と人との関わりの大切さを感じさせ、話し合い活動や異学年交流等様々な特別活動・生徒会活動を実施するとともに、共感的で受容的な学級づくりを、ライフスキル教育などを取り入れ具体的に推し進める。さらに、生徒の発表及び評価の場の設定を図る。

- (4) 豊かな心（命を大切に作る心、思いやる心、差別や偏見に憤る心、自律心、感謝）を育成するため、様々な活動や講演、そして体験の場を用意する。
- (5) 授業スタンダードの自校化による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「分かる、できる、楽しい授業」づくりを目指し、全教職員で授業力を高める取組を進める。
- (6) 新学習指導要領完全実施の前年度として単元指導計画を完成させるとともに、生徒の実態に即して授業改善の推進を行う。
- (7) 市施策の「しばたの心継承プロジェクト」を学校の取組として取りかかり、生徒にふるさとへの愛着と誇りを育む。

Ⅲ 教育活動の推進

1 3つのプロジェクトによる教育活動の推進

プロジェクトの機能を向上させて実効ある教育活動を展開する。

(1) 学力向上プロジェクト

ア 確かな学力を身に付けさせる学習指導を、基礎・基本から見直し、考えさせる課題の検討、言語表現の工夫、繰り返し問題練習、板書やノートのとり方等の再確認、授業目標（ねらい）の明示とまとめ・振り返りの充実等、授業の再構築を検討するとともに、小中連携を総合的に推進する。

- ・基礎学力及び基礎的・基本的な知識・技能の習得の方策の改善実施
- ・思考力・判断力・表現力を伸ばす教材の開発と提示
- ・学習意欲の向上や学習習慣の確立のための方策の改善実施

イ 年間指導計画を見直し、授業を再構築する。

- ・各教科、特別の教科 道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画の実質的改善

(2) 豊かな心育成プロジェクト

ア 全ての基本である学級における学級指導・経営及び学級活動の充実を図り、話し合い活動等を深化させ、互いに高め合う学級集団や自主的な生徒会を実現する。

- ・学級内における望ましい人間関係づくりの推進、ライフスキル教育の推進
- ・コミュニケーション能力向上の取組と、信頼関係確立の取組
- ・組織の在り方や活動の活発化を目指す生徒会活動への援助・指導

イ いじめの早期解決、不登校生徒の減少を目指す。

- ・「いじめ見逃しゼロスクール」実現への実効性ある取組の推進
- ・不適応・不登校生徒へのきめ細かい、家庭と連携した全校体制での支援（保健室、スクールカウンセラー、さわやかルームや市教委との情報共有、担任による相談・連絡・助言・家庭訪問等を支援する学年部・生徒指導部の連携）

- ウ 生徒と教職員が共に感性を磨き、倫理観・人権感覚を高める。
 - ・「特別の教科 道徳」の実践と授業研究の実施
 - ・被差別の立場にある人々に学ぶ人権教育、同和教育の研修と授業実践
 - ・本物の鑑賞、積極的な制作活動の奨励による芸術教育の充実
 - ・CAPプロジェクトの実施
- エ 中庭や教室の掲示物を含む学習環境整備と活用を図る。
 - ・教室環境整備計画の立案と中庭及び校地の維持管理方針の提示
 - ・環境学習の場としての意味を高める教室と校舎及び中庭の整備

(3) 食と健康・体力向上プロジェクト

- ア 各種調査結果等を基に健康・体力等の実態を把握して、食育、健康・体力づくりの全体計画及び指導計画の見直しを図る。
 - ・教科、領域及び総合的な学習の時間における指導場面の明確化
 - ・給食指導、食生活調査、健康診断・調査、体力テスト等の実施
- イ 生活リズムを定期的にチェックする。
 - ・保健室、スクールカウンセラー、さわやかルームと担任・生徒指導部・学年部の連携強化による学校・家庭生活における心身の健康に関する悩みやつまづきの早期発見と相談・指導・助言及び家庭との連絡・協力・連携
 - ・保護者、スクールカウンセラー、医療機関、相談機関等との連携
 - ・性教育の講演会の実施

2 学校評価による学校運営の改善

学校評価を計画的に実施し、次の指導に繋げながら教育活動の質的向上に資する。

(1) 学校評価計画を年度当初に示す。

- ア 学校評価委員会を組織し、年間を見通した評価計画を作成する。
- イ P D C A サイクルによる学校評価を徹底し、指導に生かす。

(2) 年度の重点目標及び努力事項に対応した、重点課題及び成果目標を設定する。

- ア 実現可能な成果目標の設定により、達成感を高め、次の目標設定に繋げる。
- イ グランドデザインの中に、成果目標の評価計画を盛り込む。

(3) 一人一人のマネジメント能力を高める。

- ア 教職員一人一人がマネジメント能力や参画意識を高める学校評価となるよう、全職員がプロジェクト会議に所属できるようにグループ編成する。
- イ 教職員一人一人が主体的に取り組めるまでに目標を具体化し、授業改善に向けた P D C A サイクルを定着させる。

3 共創の学校づくりの推進

市では「道学共創」を学校教育の指針に掲げている。当校が創設以来目指してきた「共創の学校づくり」を推進していく上で力強い道標である。今年度もその精神

を継続・発展させていきたい。

(1) より開かれた学校をつくる。

これからの時代はますます地域連携、地域貢献活動が求められる。地域が学校に何をしてくれるという立場から、中学生が地域に何ができるかを考え、小さな事から行動を起こすことが求められる。

ア 学校の情報を適時適切に発信する。

- ・タイムリーで、読みやすい各種たよりの発行（校内・校外共に）
- ・HPの充実、携帯メール配信等による迅速な情報提供（含危機管理）
- ・中学校区支援地域本部事業、外部指導者等地域の人材の発掘・活用

イ 授業参観日、「明るい子どもを育てる会」等の活性化を図る。

- ・PTA活動の見直しを検討する。
- ・授業参観日の回数や形態、地域の方々からの情報活用の検討
- ・小・中の情報交換の緊密化と小中一貫して取り組むことの確認

(2) 地域の人材及び関係機関との連携をより緊密なものとする。

ア 学校評議員会・明るい子どもを育てる会・本丸中学校区支援地域本部事業を有効に機能させ、より強力な支援組織を構築する。

イ 学校評価結果の分かりやすい公表に努め、適宜意見をいただく。

ウ 生徒指導的な問題への早期対応のため、関係機関との連携を強化する。

(3) 生徒が地域に貢献する活動を取り入れる。

ア 今ある本丸中学校の財産・経験を生かす活動
生徒会・部活動の発表の場を外に求める。

イ 地域行事・活動への生徒の参加
小中連携による挨拶運動・新発田城清掃活動

ウ 情報把握及び発信、そして評価の循環を生徒に還元する。